



アーバインの風

アーバイン校舎教頭：餅田さおり

より充実した家庭学習のために・・・

お忙しい中、懇談会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。新年度が始まり、約一か月が経ちました。各学年の運営に関しましては、保護者の皆様の多大なご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。いきいきと休み時間に遊んだり、真剣に学習したりする子どもたちとふれあい、我々教員も共に学ぶ喜びを味わっています。

さて、全体保護者会に先立ち、家庭学習についての取り組み等について、改めてお知らせをさせていただきます。

毎年お伝えをしておりますが、お子さんの学習は、「家庭」での学習と「学校」での授業との両輪で身につけていきます。子どもたちは学校で週に一度、半日の授業を受け、ご家庭で残りの日々を過ごすこととなります。各ご家庭で日本語環境は異なりますので、以下資料をお子さんに合わせながら、力を伸ばしていくための参考資料として、ご活用ください。他、不定期ですが、ご家庭でも使える学習アプリなどもご紹介していく予定です。お子様の学習に関して、ご質問やご不明なことがありましたら、担任・教科担当・主任・教頭までお気軽にお声掛けください。

1) ドリルの宿題について・・・

原則、授業で行ったところがその週の宿題で復習することになります。しかしながら、補習校の学習は、平日校の授業の数倍早く進みますので、教科書の内容すべてを授業で行うことはできません。ですから、ドリルの課題は順番通りに出されるとは限りません。また、テスト前や長期休暇の際には、より基礎力や応用力をつけるために、授業で行っていないところも出されることがあります。保護者の方と一緒にチャレンジをしてみてください。

前述のような補習校の特性上、100%理解できる・・・ということは難しいことがあります。学年の初めは、以下のようなポイントでドリル学習を進めてみましょう。

●ポイント1

保護者の方とご家庭で調べたり、教えてあげたりしながら確認してみると、理解度がアップすることもあります。「教えることを恐れず」にお子さんと一緒に「なるほど、そういうことなのか」と発見と理解を積み重ねてあげてください。

●ポイント2 特に・・・国語ドリルの王様でのポイント！

まず、文を読み、何が書かれているかをとらえさせます。次に、問題文にある言葉と関連する言葉を「文を書くのが苦手なお子さんにとっては、「答えの文章を写す」のも効果的な学習になります。写した後は、どうしてその答えになるのか、一緒に読みながら復習しましょう。

算数ドリルでは、たすのか、ひくのか、絵にしながら解くのも一つの方法です。形の名前（長方形、立方体など）や「●等分」など、日本語としての理解も一緒にできるように取り組むとよいです。

たんぼぼはのちね

答えや答えに関連する言葉や文に線を引かせると、注意
力が高まり、答えを見つけやすくなります。

3 つぎの 文しよを 読んで、もんだいに こたえましよう。

(28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

よく 晴れて、風の ある 日に
は、わた毛の らっかさんは、いっ
ぱいに ひらいて、とおくまで と
んで いきます。

でも、しめり気の 多い 日や、
雨ふりの 日には、わた毛の らっ
かさんは、すぼんで しまします。
それは、わた毛が しめって、おも
く になると、たねを とおくまで
とばす ことが できないからです。

このように、たんぼぼは、いっ
ろな ちえを はたらかせて いま
す。そうして、あちらこちらに た
ねを ちらして、あたらしい なか
まを ふやして いくのです。

(3) たんぼぼは、どう やって あたらしい なかまを ふやして
いくのですか。あう ものに ○を つけましよう。

- ㊦ (虫に たねを はこんで もらう。
- ㊧ (おなじ とところに 花を さかせる。
- ㊨ (あちらこちらに たねを ちらす。

(1) わた毛の らっかさんが
とおくまで とんで い
くのは、どんな 日ですか。

よく晴れた日
よく青れて、風の
ある日

(2) わた毛の らっかさんが
すぼむのは、どんな 日
ですか。二つ 書きましよう。

しめり気の
多い日
雨ふりの日

国語ドリルの王様 取り組み例

① 何が書かれているか言えるくらい読む

② 問題文と関連する言葉を本文から探す。似た言葉探し!

③ 本文から答えを見つける。

2) 漢字の学習について・・・

各学年ともに「国語2」の時間は、新出漢字の読みや筆順等、基本的な事項を指導しています。高学年になるにつれて、進め方や授業中に取り組む部分が違ってくこともあります。授業で扱った漢字の、言葉づくりや文づくりを宿題として、ご家庭で取り組むこととなります。

漢字の学習の宿題部分については、家庭学習面で評価されます。宿題として出されたページは、完了させていきましょう。丁寧になぞり、「とめ」「はね」「はらい」「曲げ」等にも気をつけて取り組ませましょう。

大切なのは、お子様が「財産」として日本語の力を身につけていくことです。学習を続けていく励みになるよう小さなこともほめながら取り組んでいきましょう。

また、文づくりでは、「たくさん漢字を使った文づくりを丁寧に取り組む」が目標です。現地校の学習やアクティビティで忙しい週でも、「漢字だけでも取り組ませたい」という願いをもった保護者の方が多いと思います。長い文づくりはできないかもしれませんが、一文一文を書く経験の積み重ねを大切にしていきましょう。

以下のように、ポイントをご紹介しますので、ご参考になさってください。

●ポイント1・・・文づくりは、漢字の力を定着させるチャンスです。作文の力もついていきます。

この1か月で、大分新学年での漢字学習に慣れ、3年生以上は、漢字を5つ以上使った文づくりができ始めています。書く力をつけるためにも、複数の漢字を含んだ文づくりに、ぜひ取り組ませてください。例えば、「算数では、式と答えをきちんと書きましよう。」これで5つです。短い文しか書けない場合は、文を二つ書いてもかまいません。

余裕があれば、「5種類以上書いてみよう」と、ご家庭でハードルを上げていきましょう。熟語も覚えるチャンスです。「4こ使えた！すごい、スーパー三年生レベル！」とか、「天才！」とかほめて、ほめちぎって、書く楽しみを味わわせてください。習ってない漢字にも挑戦してもいいですね。

主語と述語、助詞も意識していくと、さらによいです。辞書もどんどん活用していきましょう。

●ポイント2・・・言葉づくりや文づくりでは、教えてあげることが、言葉を覚えるチャンスです。

お子さんだけでは、文づくりで思いつかないこともあるかもしれません。そんな時は、保護者の方が教えてあげても結構です。最初は文を写すことで覚えていきます。

漢字の学習の 取り組み方

- ①「漢字の学習」で指定されているポイントに気をつけて、正しく丁寧に漢字を書きます。なぞるところは「はみ出さないで」なぞります。
- ②文づくりでは、習った漢字も書きましょう。2年生は2こ以上、3年生以上は5こ以上使えるように挑戦していきましょう。文を二つつくってもいいです。
(主語のあとに「、」を打つこと、述語、助詞が抜けていないかも丁寧にみてあげてください。)
- ③保護者の方もどんどん文を教えてください。お子さんが自然に作ることができるようになっていきます。「学ぶ」は「まねる」から始まります。

**最後のページにお子さん向けに「めあて」を記載しています。

○家庭学習で漢字を学習する上で、おさえて頂きたいポイント

1年生・・・「はね」、「とめ」、「曲げ方」、長さ、出るところ、出ないところに気をつける。

(形があっても、画数が間違わないように)

2年生・・・1年生の基準に加え、「はらい」がされるべきところ、されないところに気をつける。

3年生以上・・・1・2年生の基準に加え、「字形」(バランス)に気をつける。

3) 漢字テストについて

本校舎では学習時間と家庭学習の分量に合わせ、「これだけは覚えておきましょう」という難易度で出題しています。学年が始まったばかりの現段階では、各学年で学習する漢字を、まずは「言葉で」確実に書ける(または読める)ことを目指して難易度を設定しています。次の段階として、習った漢字も使った短文で書く問題を出題していくこともあります。

出題例:「学校」 ⇒ 「学校へ行く」

高学年では、習った漢字を復習する機会を増やしたり、読みだけのテストの回、書きだけのテストの回なども組み入れることもあるかもしれません。

*その学年の実態に応じて、まとめテストの形式や課題の分量が変わることもあります。



漢字の学習西大和流漢字マスターへの道

今日も正しく書くことができたかな？
おうちの人にみてもらいましょう！

- 「漢字の学 習」のポイントに気をつけて、正しくていねいに漢字を書いている。
- なぞるところは、はみ出していない！
- 文づくりでは、^{ならったかんじ}習った漢字を2年生は「2こ以上」、3年生以上は「5こ以上」使っている！
- ^{なら}習った^{かんじ}漢字も^{つか}使っている！
- 文を二つつくった！
- ^{しゅご}主語・^{じゅつご}述語を書いた！（例 ぼくは、来週の運動会が楽しみです。）
- ^{しゅご}主語のあとは、「、」をわすれずに！



はみださないように
なぞって・・・